

(別添 3)

【遊佐町】

校務 DX 計画

1. 校務 DX 推進上の現状と課題

本町では、令和 2 年より校務支援システムを導入し、「指導要録機能」「出欠管理機能」「成績処理機能」「調査書機能」について校務処理の負担軽減を図っている。

その他、小中学校に情報送受信システムを活用し、児童生徒の欠席・遅刻・早退の連絡、配布物の配布、緊急の連絡手段として、保護者とのやり取りの利便性と正確性を高めている。

課題としては「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による点検の結果、職員会議や授業研究会、校内研修の対面・オンラインでのハイブリッド開催等が DX 化する余地が多い点として挙げられる。

校務支援システムの利用が職員室に限られる他、校務用個人メールアドレスについても端末や場所に制限されない利用ができていない状況にある。

2. 課題の原因と解決策

各種研修会については、年間行事として決めているもののほか、システムやソフトの導入に際して研修会を行ってきたところであるが、学校行事スケジュールの確保、また教職員の出席可能な時間の調整、場所を移動してまでの参加時間の確保は、業務が山積み働き方改革が叫ばれる中で困難なところである。

このため、上記のような研修について、一か所に集まることなく研修を行えるよう、業務に支障ない性能の端末貸与と、学校系 NW をつうじて参加可能な形態での会議のオンライン化（ハイブリッド開催）を進め、業務負担低減に努めていく。

また現在、校務系・生徒系（学習系）ネットワークは分離され、端末の使い分けが必要な状態であることや、第 1 期から期間が経過し、学校活動や業務上要望のある端末の活用方法が求められてきている。

このため、ICT 担当教員の意見を仰ぎながら、セキュリティポリシーの内容をわかりやすく再整理したうえで、各要望事項における取り決めに明確化し、ゼロトラストの考え方に基づいたテレワーク環境の整備に向けた検討を進めていく。